

海洋システム科通信 9月号



その人気、不動
(海洋システム科 3年生)



文化祭で手作りパンを販売したぞ！コロナの影響で、本校生徒のみへの販売となってしまったが、“高田パン”は不動の人気商品！即完売した！なお、1、2年生は、漁船のモザイクアートを作成し校内のコンテストで優秀賞に選ばれた！

今旬
岩手魚



9月はスルメイカが旬を迎える！
どう食べても美味しいが、やっぱり、
焼きイカがおススメだぞ！

高高一の
釣り師は！？



(海洋システム科および普通科生徒)



今年も釣りの技を競い合う、フィッシング技能コンテストを7月23日に実施したぞ！海洋システム科だけでなく、本校普通科からも生徒が多数参加した！栄えある覇者は！？



課題研究



小学生体験実習



小笠原ダイビング実習

昨年度の取組(後期)
高校3年生



大漁祭りで販売体験

海洋システム科3年生は、一年間の後半で課題研究、海でのダイビング実習、食品販売など培ってきた知識技術を発揮しながら、自分たちで考え、表現する機会が増えていく！

先生の独り言 vol.5

「0%と0.02%では全く違う」

ウミガメの産卵を見たことはあるだろうか？真夜中に、命がけで海から砂浜に上がり、目に涙を浮かべながら産卵する姿はなんとも感動的だ。ところで、ウミガメが“どのように産卵場所を選んでいるか”をご存じだろうか？

母ガメが産卵する場所は、子ガメの生き残りを大きく左右する。産卵場所が海から近すぎれば、波で卵がさらわれてしまい、逆に、遠すぎれば、卵から生まれた子ガメが海にたどり着く前に、鳥や蛇などに食べられてしまう。母ガメはどのように“ちょうど良い場所”に産卵するのか？

ウミガメは産卵に潮汐を利用する。潮汐とは、一日の中で海面が上がったり下がったりする現象のことである。特に、海面が最も高くなる時間帯を満潮、最も低くなる時間帯を干潮といい、ウミガメは、満潮の時間帯に波の届かない場所で産卵する。こうすれば、卵が波にさらわれる可能性も、生まれた子ガメが海にたどり着くまでの間で天敵に食べられる危険性も低くできるのだ。

卵からふ化した子ガメの中で、無事大人になれるのは5000匹に1匹と言われている。つまり、母ガメがちょうどいい場所に産んでも、わずか0.02%の子供しか生き残れないことになる。しかし、重要なことは、“0ではない”ということだ。私たちにとってわずか0.02%であっても、ウミガメにとっては、子孫を未来に残す“0.02%”なのだ。母ガメがわずか0.02%の可能性を信じて、子供にとって最適な時間と場所を選び、命がけで産卵していることを思えば、ウミガメの産卵はより一層感動的に見えるのだ。

